

# 平成29年度の主要な施策 (要旨)



※平成29年度の主要な施策の全文は西ノ島町ホームページ「ウェブ町長室」に掲載しています。

## 町制60周年について

昭和32年2月11日に、浦郷町と黒木村が合併し、西ノ島町が誕生してから60年を迎えました。離島という宿命のもと、漁業、畜産、観光を産業の柱とし、地場産業の育成や地域の活性化に取り組んでまいりました。

この間、過疎化や自然災害、財政難など幾多の困難に立ち向かいながら、今日の発展を遂げてきたところであります。

歴代の町長をはじめ、議会議員の皆様方、町民の皆様方のご労苦やご尽力に対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げる次第であります。

本年度は、この節目の年にあたることから、記念式典と記念行事の開催を予定しておりますので、町民の皆様とともにお祝いしたいと思います。

## 有人国境離島法について

昨年4月に法案が成立した有人国境離島法は、本年4月1日より10年間の時限立法として施行されることとなりました。現在、日本には、本土と位置付けられるものを除き、418の有人離島があり、その中で隠岐諸島を含む15地域・71島が、特定有人国境離島に位置付けられ、運賃低廉化、物資の費

用負担の軽減、滞在型観光の促進、雇用機会の拡充に係る制度の対象となつたところであります。

長年の懸案であった、海路に係る高い交通コストの解消には、大きな前進が見られることとなりましたが、今後は移住・定住の促進や産業の活性化、雇用の拡大にも積極的に活用を図ってまいります。また、対象範囲の拡大や制度の拡充などについても、引き続き、関係機関で連携しながら取り組んでまいります。

## 組織機構の見直しについて

現在の組織機構は、平成22年の機構改革で、組織や業務の集約化を図り、住民サービスの向上と事務の効率化を目指してまいりました。

しかしながら、近年、地方分権や地方創生の推進、通信環境向上などの社会情勢の変化に伴い、業務量も大幅に増加しております。また、全庁的に管理職も含め急激な職員の若返りや、人員不足からくる組織力の低下も否めないことから、今回、課の改編を中心に、見直しを行うことといたしました。この見直しにより、総合戦略の着実な実行に向け、職員自らが目的意識を持って、迅速且つ意欲的に業務に取り組み、

住民サービスの向上に繋がる組織を指すものであります。あわせて、今回、職員定数も見直すこととし、必要な人員確保に努めてまいります。

### 隠岐ユネスコ世界ジオパーク

平成25年9月に世界認定を受けた隠岐ジオパークは、今年で4年が経過することから、再認定の現地審査が行われます。推進協議会では再認定に先駆けて、昨年5月に隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想と5カ年の行動計画を策定しており、ジオパークを活用したこれからの地域振興策、教育・人材育成等について記しております。

隠岐4町村では、こうした計画に基づき、拠点施設の整備をはじめ様々な施策に取りかかっているところであり、再認定に向けても関係団体と連携して取り組んでまいりますので、町民の皆様にもご理解とご協力をお願い申し上げます。また、本年度より2年間、ジオパーク推進協議会へ職員を派遣することが決まっておりますので、協議会の一員として活躍することを期待しております。

### 産業振興

#### 【水産業】

昨年の水産関係の状況を見ますと、ま

き網漁業では、概ね平年並みの漁獲高を確保し、依然好調を維持しております。

一本釣りでもヨコワ漁が、前年比12%増の豊漁となるなど、大変喜ばしい状況であります。こうした中、水産業の中核を担うまき網漁業では、老朽化した船の更新が喫緊の課題となっております。

これまで、支援策等について島根県やJF、漁業者と協議を重ねてきておりますが、今後も継続して、より良い方向となるよう取り組んでまいります。

漁業就業者の確保対策では、昨年から行っている一本釣りや刺し網、採介藻漁業などの新規就業者に対する支援や、まき網漁業の乗組員確保に繋がる支援を引き続き、行ってまいります。また、地元水産物の付加価値をつけるため、加工商品の量産体制構築や販路拡大に繋がる支援を行ってまいります。そのほか、新たな雇用創出や漁業者の所得向上を目指していくため、未利用資源を活用した新商品の開発に向け取り組んでまいります。

#### 【農林業】

畜産関係につきましては、市場において高値取引が続いております。

一方で、畜産農家の高齢化、減少が年々進み、後継者や新規就農者の確保が、畜産振興を進める上で大きな課題であり、

その対策が最も重要と考えております。

昨年は、就農体験で3名の受け入れを行っており、今春から新たに1名の方が、就農を目指して来町される予定となっております。

就農にあたっては、事前の短期体験も重要な判断材料となりますので、引き続き、県をはじめJA、畜産農家等の協力も得ながら相談、受け入れ体制の充実を図り、情報発信に努めてまいります。また、長年の課題でありました家畜市場の整備については順調に進んでおり、今年度末に完成の予定となっております。

新施設の完成後には、新規就農者の研修や各種講習会など、拠点施設として有効活用を図ってまいります。林業関係につきましても、引き続き、島根県の「ふるさとの森再生事業」と町内の松くい虫被害跡地を中心に、分収林事業を行ってまいります。また、広がりを見せている竹林地の対策についても、分収林事業を活用しながら取り組んでまいります。

#### 【観光】

ここ数年の入込客数は、尾道松江線の開通や大型ツアー等により、回復傾向にあるほか、外国人観光客につきましても増加傾向となっております。明るい兆しが見えております。しかしな

がら、多様化するニーズの中、受け入れを担う宿泊施設の老朽化や地域の特色を活かした観光メニューの開発など、課題も抱えている状況であります。

こうした中、観光協会では今年度から鳥や花、景観等の自然素材を活かした体験プログラムの構築に取り組むこととしておりますので、実現に向けて必要な支援を行ってまいります。また、幅広く本町へ訪れていただけるよう、積極的に国内外への情報発信に努めてまいります。

近年、定着してきたクルーズ客船の寄港については、今年「につぼん丸」「飛鳥II」の2隻が予定されておりますので、満足いただけるよう、更なる受け入れ体制の充実を図ってまいります。また、来年4月には県内初の寄港が決定しているアメリカ船籍のクルーズ客船受け入れに向け、関係機関と連携しながら準備を進めてまいります。

#### 【交流・イベント】

春シーズンは、由良比女神社の夜桜の下で舞う、島前神楽などが好評を得ている「国賀開きフェスタ」を皮切りに、国賀浜で行われる「ビーチクリーンフェス」や「ツーデーウォーク」が順次予定されております。また、今回の「国賀開きフェ